

一五峠は右岸側にはしごが付いていた。

沢がS字に曲がる。奥にはF一五峠があった。滝の左岸ぞいのガケを登って捲く。ガケを登らなくとも左岸ぞいに踏み跡らしいものがあり捲道のようなのである。

この先小滝二つを越える。あとは林道までゴーロ歩きである。まだ水量も多かったが、時間の関係で、林道の「かみあまどばし」にて廻行を打ち切る。(記・……)

〔タイム〕

天戸川・徳沢出合八・五五―かみあまどばし一四・四五

徳 沢

一九七九年六月十日

天戸川・五五―かみあまどばし

◆天気(晴)

水沢部落まで車で送ってもらう。一五分程天戸川の堤を歩き、堤のきれた地点から廻行開始。水は結構暖かく、天候も上々。沢登りには好適である。

五分程で橋にぶつかる。地図で確認すると吾妻高原牧場に通ずる道路である。この道路は少し先で二つに分かれ、一本は天戸川沿いに続いている。廻行していると車

がすぐ上を通りすぎていく。少々気がめいる。

沢はほとんど傾斜もなく、滝もかからない。八時四八分、砂防ダムに出合う。左岸を高捲きするが、かなりのつり人が入っているらしく、はっきりした踏跡がついていた。一五分たらずでまた砂防ダム。これを越えて一〇分たらずですぐ次の砂防ダムである。本当に気がめいる。この辺まで来ると沢の水がにごっている。たまたま出合った中学生三人に話を聞くと、この上で砂防ダムの工事をしているという事である。

九時二〇分、徳沢出合。砂防工事はここで行われていた。徳沢に入ると単調なゴーロが続く。一時昼食。まだ単調なゴーロである。一二時二三分に砂防ダムを捲いて、一三時に上天戸橋に到着。ここで廻行を打ち切る。

(記・……)

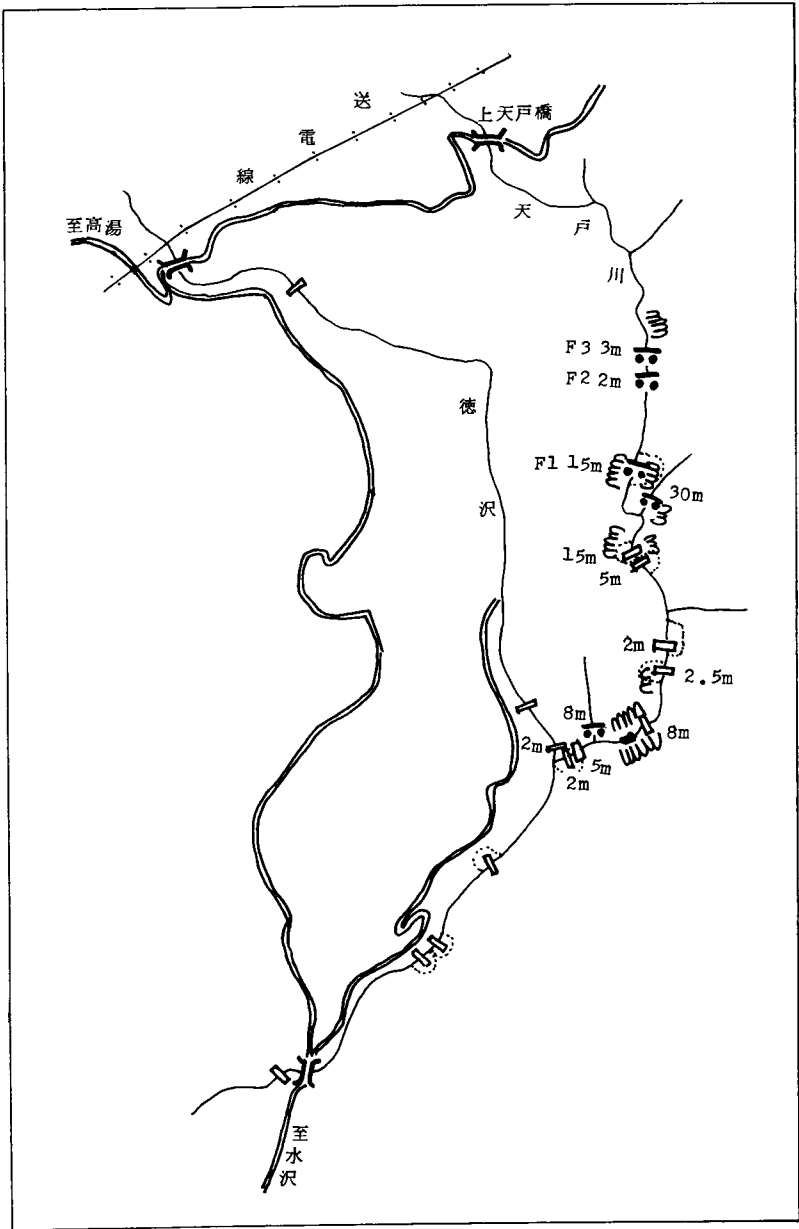
〔タイム〕

水沢七・五〇―天戸川出合八・一〇―徳沢出合九・四

〇―上天戸橋一三・〇〇

〔追記〕 徳沢名称について

「徳沢」・「戸草川」・「木賊沢」など種々用いられているが、本誌では「徳沢」に統一した。



天戸川，徳沢 (作図：)

与)